

- SIBLEY, J. A. and LEHNINGER, A. L. 1949. Determination of aldolase in animal tissues. *J. Biol. Chem.* 177: 859-872.
- SLACK, C. R. and HATCH, M. D. 1967. Comparative studies on the activity of carboxylase and other enzymes in relation to the new pathways of photosynthetic carbon dioxide fixation in tropical grasses. *Biochem. J.* 103: 660-665.
- SUGIYAMA, T., MATSUMOTO, C., AKAZAWA, T. and MIYACHI, S. 1969. Structure and function of chloroplast proteins VII. Ribulose-1, 5-diphosphate carboxylase of *Chlorella ellipsoidea*. *Arch. Biochem. Biophys.* 129: 597-602.
- SUZUKI, H. 1974. Starch-type polysaccharide and mannitol in *Platymonas*. *Phytochemistry* 13: 1159-1160.
- WANKA, F., JOPPEN, M. J. and KUYPER, CH. M. A. 1970. Starch-degrading enzymes in synchronous cultures of *Chlorella*. *Z. Pflanzenphysiol.* 62: 146-157.
- YAMAGUCHI, T., IKAWA, T. and NISIZAWA, K. 1969. Pathway of mannitol formation during photosynthesis in brown algae. *Plant & Cell Physiol.* 10: 425-440.

新刊紹介

ペレストenko, L. P. 1980. ビヨトル大帝湾の海藻 (Перестенко, Л. П. Водоросли залива Петра Великого <Наука> Ленинград, 1980), 232 頁, 404 図, (日本での購入価格は約 4,500 円)

本誌 27(2): 104, 28(1): 28 でも紹介したようにソ連科学アカデミー・コマロフ植物研究所 (レニングラード) の海藻学研究室では最近極東地方の海藻の分類に力を注いでおり, ビノグラドーフ博士による緑藻の著書に続き, 今回, ペレストenko 博士によるビヨトル大帝湾の海藻と題する著書が刊行された。

ビヨトル大帝湾はウラジオストックを中心にいくつかの湾を含む広い海域で, その地理的位置からみて, ソ連邦日本海沿岸の海藻を知る上で重要な地域であり, また海洋生物の研究所を設けられていることなどから従来よりよく調査されてきた沿岸でもある。また, 同時に, 舟橋 (1966, 本誌 14: 127-145) によって述べられたように日本の海藻フロラとの共通性も大きいことなどから, 本書は我々にとっても重要な資料となる。

この仕事は主として1965年著者自身の調査採集, 1965, 1966年に動物研究所が行ったウラジオストック南方のポシエタ湾での調査で持帰った標本, E. S. Zinova 等による1920~30年代の採集品などによって行われている。

内容は分類と日本海沿岸の植生概要の項に分れているが力点は分類におかれている。まず, 分類の項では紅藻, 褐藻, 緑藻の順で計65科, 161属, 225種について記載し巻末に図を与えている。この中で次の8新種, 1新品種が記載された。紅藻5種 (*Porphyra inaequicrassa*, *Hollenbergia asiatica*, *Tokidaea hirta*, *Rhodomela munita*, *Laurencia saitoi*), 褐藻2種 (*Climacosorus pacificus*, *Ralfsia longicellularis*), 緑藻1品種 (*Enteromorpha clathrata* subsp. *asiatica* f. *leptoclada*)。沿岸植生の項は日本海沿岸の潮間帯, 亜潮間帯の主要な帯状分布を中心に次の6細目に分けて述べている。1. 潮間帯の帯状分布, 2. ビヨトル大帝湾潮間帯の海藻群落と分布, 3. ポシエタ湾潮間帯の海藻群落, 4. 亜潮間帯の帯状分布, 5. ビヨトル大帝湾の亜潮間帯海藻群落と分布, 6. ポシエタ湾の亜潮間帯海藻群落。これら亜潮間帯海藻群落ではアマモ, スガモなどの海産植物の群落についても詳述されている。ソ連の研究報告には地図が入っていないものが多いが, 本書もその例に洩れず一葉の地図も入っていない。我々外国人にとってはこの点が著しく不便である。

(小樽商大 山田家正)